



休棟予定										
廃止予定										
介護保険施設等へ移行予定										
無回答等	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟				
変更予定年月	-	-	-	-	-	-				

## (留意事項)

- 公表している項目の中には、診療報酬制度上で定められた診療行為の定義に従って集計した項目が多くありますが、その項目の解説については、医療関係者以外の方にも分かりやすい表現とする趣旨で記載しているため、診療報酬制度上の定義を詳細には記載していない場合があります。
- また、公表している項目の中には、個人情報保護の観点から、1以上10未満の値を「\*」で秘匿している項目があります。
- 「未確認」とされている情報は、未報告や報告内容の不整合があったことから確認が必要な情報になります。
- 施設全体の欄では、内容に「\*」、「未確認」とされている情報が含まれている場合に「※」を記載しています。
- 「-」とされている情報は、任意の報告項目や報告が不要となる場合、留意すべき報告対象期間について特段の情報がない場合に記載されています。



## 診療科

(項目の解説)		主とする診療科は、5割以上の患者を診療している診療科を示しています。5割を超える診療科がない場合は、上位3つの診療科を示しています。							
(病棟名)		1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟		
(機能区分)		急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期		
主とする診療科		複数の診療科で活用	複数の診療科で活用	外科	複数の診療科で活用	内科	複数の診療科で活用		
複数ある場合、上位3つ		内科	神経内科	-	整形外科	-	内科		
		神経内科	皮膚科	-	外科	-	神経内科		
		眼科	脳神経外科	-	内科	-	-		

## 入院基本料・特定入院料及び届出病床数

(項目の解説)		入院基本料・特定入院料とは、入院時の基本料金に該当する点数ですが、種類によっては基本料金だけでなく、一定の検査や薬の費用などが包括されている場合もあります。病床を利用する患者の状態や職員の配置状況に応じて入院 1 日あたりの点数が設定されていて、様々な区分があります。この項目は、医療機関において、どの入院基本料・特定入院料の病床がいくつ設定されているか（届出病床数）を示します。								
(病棟名)	(機能区分)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟			
	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期			
算定する入院基本料・特定入院料		急性期一般入院料 1	急性期一般入院料 1	急性期一般入院料 1	急性期一般入院料 1	急性期一般入院料 1	急性期一般入院料 1			
届出病床数		49床	49床	49床	54床	50床	45床			
病室単位の特定入院料		-	-	-	-	-	-			
届出病床数		0床	0床	0床	0床	0床	0床			
病室単位の特定入院料		-	-	-	-	-	-			
届出病床数		0床	0床	0床	0床	0床	0床			
介護療養病床において療養型介護療養施設サービス費等の届出あり		0床	0床	0床	0床	0床	0床			













(項目の解説)	人工心肺を用いた手術とは、心臓手術などの際に心臓と肺の機能を代行する装置を用いて行う手術です。 胸腔鏡下手術とは、胸部を切り開くことはせず、胸部に開けた小さな穴から、胸部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「きょうくうきょうかしゅじゅつ」と読みます。 腹腔鏡下手術とは、腹部を切り開くことはせず、腹部に開けた小さな穴から、腹部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「ふくくうきょう かしゅじゅつ」と読みます。 値はこの手術を行った患者数です。							
(病棟名)	施設全体	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟	
(機能区分)		-	-	-	-	-	-	
人工心肺を用いた手術	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
胸腔鏡下手術	*　※	0件	0件	*	0件	0件	0件	
腹腔鏡下手術	274件　※	*	0件	274件	*	*	*	

## がん、脳卒中、心筋梗塞、分娩、精神医療への対応状況

(がん)	(項目の解説)	施設全体
悪性腫瘍手術	悪性腫瘍手術とは、がんを取るための手術です。値は手術を行った患者数です。	* ※
病理組織標本作製	病理診断とは、患者の身体から採取した細胞や組織等を観察し、病気の確定診断をすることをいいます。病気の早期発見や治療方針の選択、治療効果の判定等にも役立ちます。値は病理診断に必要な標本（細胞の組織片等）を作成した患者数です。	420件 ※
術中迅速病理組織標本作製	術中迅速診断とは、病気の良性・悪性の判断や切除範囲を決めるため、手術中に病理診断をすることをいいます。そのための病理組織標本作製を、手術中に行った患者数です。	* ※
放射線治療	放射線治療とは、がんに放射線を当てる（照射する）ことで、がんを縮小させる治療を放射線治療といいます。値は放射線治療を行った患者数です。	0件
化学療法	化学療法は、抗がん剤によりがんを殺したり、小さくしたりする治療法です。値は化学療法を行った患者数です。（ここでいう抗がん剤とは、総務大臣が定める日本標準商品分類における「8742腫瘍用薬」に指定されている医薬品のことを指します。）	* ※
がん患者指導管理料イ及びロ	がん患者指導管理料は、がんの患者が、診断結果や治疗方法を理解し、納得のいく治療方針を選択できるよう、専門的な研修を受けた医師や看護師が、文書での説明や相談、指導を行っていることを示す項目です。値は相談や指導を行った患者数です。	* ※
抗悪性腫瘍剤局所持続注入	抗悪性腫瘍剤局所持続注入は、がんの患者に対し、カテーテル（細い管状の医療器具）等を用いて動脈や静脈等に抗がん剤を持続的に注入する治療です。値はこの治療を行った患者数です。	* ※
肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入	肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入は、肝臓がんの患者に対し、カテーテル（細い管状の医療器具）を用いて肝動脈内に抗がん剤を投入する治療方法をいいます。同時に、動脈の血流を遮断する物質を注入することで、肝臓のがんを殺す治療です。値はこの治療を行った患者数です。	0件
(病棟名) (機能区分)	1病棟 2病棟 3病棟 5病棟 6病棟 7病棟	
悪性腫瘍手術	0件 * * 0件 0件 0件	
病理組織標本作製	* * 420件 * * *	
術中迅速病理組織標本作製	0件 0件 * 0件 0件 0件	
放射線治療	0件 0件 0件 0件 0件 0件	
化学療法	* * * * * *	
がん患者指導管理料イ及びロ	0件 0件 * 0件 0件 0件	
抗悪性腫瘍剤局所持続注入	* 0件 * 0件 0件 *	
肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入	0件 0件 0件 0件 0件 0件	

(項目の解説)		施設全体
超急性期脳卒中加算	超急性期脳卒中加算は、脳梗塞の患者に対し、発症後速やかに薬剤を投与して血栓を溶かす治療を行ったことを示す項目です。値はこの治療を行った患者数です。	* ※
t - PA投与（脳梗塞に対するもの）	t-PA投与（脳梗塞に対するもの）は発症から4.5時間以内で、CTやMRI検査で脳梗塞の変化がごく僅かである場合に、tPAという薬剤を点滴（静脈内投与）するものです。値は脳梗塞の患者に対して投与した患者数です。	* ※
脳血管内手術	脳血管内手術は、脳動脈瘤等の患者に対し、頭蓋骨を切り開く開頭手術をせず、カテーテル（細い管状の医療器具）を用いて脳の血管の内側から患部を治療する手術です。値はこの手術を行った患者数です。	0件

(病棟名) (機能区分)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟			
	-	-	-	-	-	-			
超急性期脳卒中加算	0件	*	0件	0件	0件	0件			
t - PA投与（脳梗塞に対するもの）	0件	*	0件	0件	*	0件			
脳血管内手術	0件	0件	0件	0件	0件	0件			

## (心筋梗塞)

(項目の解説)	経皮的冠動脈形成術は、狭心症や心筋梗塞等の患者に対し、胸部を切り開く開胸手術をせず、カテーテル（細い管状の医療器具）を用いて心臓の冠動脈を血管の内側から治療する手術です。値はこの手術を行った患者数です。							
(病棟名)	施設全体	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟	
(機能区分)		-	-	-	-	-	-	
経皮的冠動脈形成術	*	※	*	0件	0件	0件	0件	*

## (分娩)

(項目の解説)	分娩件数は、分娩を行った患者数です。							
(病棟名)	施設全体	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟	
(機能区分)		急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	
分娩件数 (正常分娩、帝王切開を含む、死産を除く)	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	



(病棟名)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟			
(機能区分)	-	-	-	-	-	-			
ハイリスク分娩管理加算	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅱ）	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
地域連携分娩管理加算	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
救急搬送診療料	*	0件	0件	0件	0件	0件			
観血的肺動脈圧測定	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
持続緩徐式血液濾過	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
大動脈バルーンパンピング法	*	0件	0件	0件	0件	*			
経皮的心肺補助法	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
補助人工心臓・植込型補助人工心臓	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
頭蓋内圧持続測定（3時間を超えた場合）	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
人工心肺	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
血漿交換療法	*	0件	0件	0件	0件	0件			
吸着式血液浄化法	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
血球成分除去療法	0件	0件	0件	0件	0件	0件			

(項目の解説)	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を測定することが算定の要件となっている入院基本料（注加算含む）・特定入院料・入院基本料等加算の届出を行っている場合、項目ごとに令和4年4月1日～令和5年3月31日の1年間の在棟患者延べ数について「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票Ⅰ」、「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票Ⅱ」を用いて評価を行います。								
(病棟名)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟			
(機能区分)	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期			
当該病棟において届出を行っている一般病棟用の重症度、医療・看護必要度の評価方法	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱ	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱ	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱ	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱ	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱ	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱ			



## 救急医療の実施状況

		(項目の解説)	施設全体
院内トリアージ実施料	院内トリアージ実施料は、夜間や休日、深夜に受診した救急患者に対し、その緊急度に応じて、診療の優先順位付け（院内トリアージ）を行っていることを示す項目です。値はトリアージを行った患者数です。	1,710件 ※	
夜間休日救急搬送医学管理料	夜間休日救急搬送医学管理料は、夜間や休日等の救急搬送に対応していることを示す項目です。値は、深夜、休日等に救急車や救急医療用ヘリコプター等で搬送され、診療を行った患者数です。	235件 ※	
精神科疾患患者等受入加算	精神科疾患患者等受入加算は、夜間や休日等に救急搬送される急性薬毒物中毒の患者に対応していることを示す項目です。値は、夜間や休日等に搬送された患者のうち、過去6月以内に精神科の受診歴がある患者や、急性薬毒物中毒（アルコール中毒は除く）と診断された患者数です。	* ※	
救急医療管理加算 1 及び 2	救急医療管理加算は、意識障害、昏睡等の重篤な状態の患者の緊急入院を受け入れていることを示す項目です。値は休日又は夜間に緊急入院し、救急医療を行った患者数です。	2,895件 ※	
在宅患者緊急入院診療加算	在宅患者緊急入院診療加算は、在宅での療養中に病状が急変し、入院が必要となった場合に、患者の意向を踏まえた医療が引き続き提供されるよう、他の医療機関と連携する取組を行っていることを示す項目です。値は、他の医療機関の求めに応じて緊急入院を受け入れた患者数です。	* ※	
休日に受診した患者延べ数	休日に受診した患者延べ数は、休日（日曜、祝日、年末年始）に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	2,191人	
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数		389人	
夜間・時間外に受診した患者延べ数	夜間・時間外に受診した患者延べ数は、夜間・時間外（医療機関が表示する診療時間以外の時間（休日を除く））に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	3,053人	
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数		916人	
救急車の受入件数	救急車の受入件数は、救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数です。	3,702件	
救命のための気管内挿管	気管内挿管は、気道確保を行うためのチューブ等を口や鼻から挿入する処置です。値は救命措置として気管内挿管を行った患者数です。	* ※	
体表面ペーシング法又は食道ペーシング法	体表面・食道ペーシングは、胸部または食道内に電極をおき、電極を介して心臓を電気刺激する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
非開胸的心マッサージ	非開胸的心マッサージは、胸部を開く等の手術を伴わない、一般的な心臓マッサージを行う処置です。値は処置を行った患者数です。	* ※	
カウンターショック	カウンターショックは、心停止した患者に対し、AEDや専門の医療機器等を用いて、心臓に電気ショックを与え、正常な状態に戻す処置です。値は処置を行った患者数です。	* ※	
心膜穿刺	心膜穿刺は、心臓を覆う心膜に針等を刺し、心臓に貯まった水を排出する処置です。値は処置を行った患者数です。	* ※	
食道圧迫止血チューブ挿入法	食道圧迫止血チューブ挿入法は、食道静脈瘤からの出血に対し圧迫止血の目的でチューブを挿入する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
急性期充実体制加算	急性期充実体制加算は、高度かつ専門的な医療及び急性期医療を提供できる旨の届出のあった医療機関に患者が入院したことを示す項目です。値は患者の入院日数です。	0件	
早期栄養介入管理加算	早期栄養介入管理加算は、入院後早期から必要な栄養管理を行ったことを示す項目です。値は栄養管理を行った患者の入院日数です。	0件	

(病棟名)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟			
(機能区分)	-	-	-	-	-	-			
院内トリアージ実施料	*	532件	530件	259件	*	389件			
夜間休日救急搬送医学管理料	*	*	235件	*	*	*			
精神科疾患患者等受入加算	*	0件	*	0件	0件	0件			
救急医療管理加算1及び2	777件	720件	969件	429件	*	*			
在宅患者緊急入院診療加算	*	*	*	*	*	*			
休日に受診した患者延べ数									
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数									
夜間・時間外に受診した患者延べ数									
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数									
救急車の受入件数									
救命のための気管内挿管	*	*	*	*	0件	*			
体表面ペーシング法又は食道ペーシング法	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
非開胸的心マッサージ	*	*	*	0件	0件	*			
カウンターショック	*	0件	0件	0件	0件	*			
心膜穿刺	0件	0件	0件	0件	0件	*			
食道圧迫止血チューブ挿入法	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
急性期充実体制加算	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
早期栄養介入管理加算	0件	0件	0件	0件	0件	0件			



## 全身管理の状況

(項目の解説)							施設全体	
(機能区分)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟		
	中心静脈注射	中心静脈注射は、薬剤や栄養を長時間、安定的に供給する目的等で、血液量が多く流れも速い心臓近くにある太い静脈（中心静脈）に注射する行為です。値はこの注射を行った患者数です。			*	*		* ※
	呼吸心拍監視	呼吸心拍監視は、重篤な心機能障害や呼吸機能障害をもつ患者に対し、その呼吸や心拍数の状況を持続的に監視する検査です。値はこの検査を行った患者数です。				*	2,189件	* ※
	酸素吸入	酸素吸入は、呼吸器疾患等で酸素が欠乏した状態の患者に対し、高濃度の酸素を吸入させる処置です。値はこの処置を行った患者数です。				*	528件	* ※
	観血的動脈圧測定（1時間を越えた場合）	観血的動脈圧測定は、重症患者の血圧観察のために、動脈に管を挿入し、持続的に血圧を測定する検査です。値はこの検査を行った患者数です。				*		* ※
	ドレン法、胸腔若しくは腹腔洗浄	ドレン法は、手術後等の患者に対して、胸腔や腹部等に管を入れ、体内に溜まった消化液、膿、血液や浸出液などを体外に排出する処置です。胸腔・腹腔穿刺は、胸腔、腹部に針を刺し、洗浄、注入および排液をする処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。				*	387件	* ※
	人工呼吸（5時間を超えた場合）	人工呼吸は、呼吸の力が弱くなった患者に対し、機器を使って呼吸の補助をおこない、過剰にたまつ二酸化炭素を排出し、酸素の取り込みを促す処置です。値は5時間以上継続的にこの処置を行った患者数です。				*		* ※
	人工腎臓、腹膜灌流	人工腎臓、腹膜灌流のうち、人工腎臓は、透析機器（人工膜）を通すことによって、血液中の老廃物や余分な水分を取り除き血液を浄化する処置です。腹膜灌流（ふくまくかんりゅう）は、患者の腹膜（腹部の臓器を覆う膜）を介して血液中の余分な水分や老廃物が透析液側に移動する処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。				*		* ※
	経管栄養カテーテル交換法	経管栄養カテーテル交換法は、口からの栄養摂取が難しく、胃や食道にカテーテル（細い管状の医療器具）を挿入し、直接栄養を送り込む処置を行っている患者について、そのカテーテルを交換する処置です。値はこの処置を行った患者数です。				*		* ※

## リハビリテーションの実施状況

(項目の解説)		施設全体
疾患別リハビリテーション料	疾患別リハビリテーション料は、患者の疾患や状態に応じたリハビリテーションを行った患者数です。	2,645件 ※
心大血管疾患リハビリテーション料	心大血管疾患リハビリテーション料は、心筋梗塞、狭心症、慢性心不全等の患者に対し、必要な心機能の回復、疾患の再発予防等を図るために行うリハビリテーションです。値はリハビリテーションを行った患者数です。	* ※
脳血管疾患等リハビリテーション料	脳血管疾患等リハビリテーション料は、脳梗塞、脳出血等の患者に対し、必要な基本動作能力、言語聴覚能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	406件 ※
廃用症候群リハビリテーション料	廃用症候群リハビリテーション料は、基本動作能力の回復、実用的な日常生活における諸活動の自立を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	1,103件 ※
運動器リハビリテーション料	運動器リハビリテーション料は、脊椎損傷による四肢麻痺、関節拘縮（かんせつこうしゅく：関節の動きが制限された状態）等の患者に対して、必要な基本的動作能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	561件 ※
呼吸器リハビリテーション料	呼吸器リハビリテーション料は、肺炎、肺腫瘍、慢性の呼吸器疾患等の患者に対し、症状に応じて必要な呼吸訓練等を行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	* ※
障害児（者）リハビリテーション料	障害児（者）リハビリテーション料は、脳性麻痺、発達障害等の患者に対し、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件
がん患者リハビリテーション料	がん患者リハビリテーション料は、がんの患者に対し、治療の過程で生じた筋力低下、障害等の改善を目的として行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件
認知症患者リハビリテーション料	認知症患者リハビリテーション料は、重度の認知症患者に対し、必要な認知機能や社会生活機能の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件
早期リハビリテーション加算（リハビリテーション料）	早期リハビリテーション加算は、治療開始後の早期段階（治療開始日から30日以内）からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は早期段階のリハビリテーションを行った患者数です。	2,366件 ※
早期離床・リハビリテーション加算（特定集中治療室管理料）	早期離床・リハビリテーション加算（特定集中治療室管理料）は、入院後早期から離床に向けた取組を行っていることを示す項目です。値は早期離床段階のリハビリテーションを行った患者数です。	0件
初期加算（リハビリテーション料）	初期加算は、治療開始後の初期段階（治療開始日から14日以内）からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は初期段階からリハビリテーションを行った患者数です。	0件
摂食機能療法	摂食機能療法は、食べる機能（摂食機能）が落ちている患者に対し、症状に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	* ※
休日リハビリテーション提供体制加算（回復期リハビリテーション病棟入院料）	休日リハビリテーション提供体制加算は、休日にも平日同様にリハビリテーションを提供できるような職員配置がなされていることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件
入院時訪問指導加算（リハビリテーション総合計画評価料）	入院時訪問指導加算は、医師、看護師等が、患者が退院後に生活する自宅や施設等を訪問し、その住環境や家族の状況等を踏まえたリハビリテーション実施計画を策定していることを示す項目です。値はこのようにして計画が策定された患者数です。	0件

(病棟名)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟			
(機能区分)	-	-	-	-	-	-			
疾患別リハビリテーション料	541件	676件	369件	710件	*	349件			
心大血管疾患リハビリテーション料	*	*	0件	*	0件	*			
脳血管疾患等リハビリテーション料	*	406件	*	*	0件	*			
廃用症候群リハビリテーション料	294件	233件	338件	*	*	238件			
運動器リハビリテーション料	*	*	*	561件	0件	*			
呼吸器リハビリテーション料	*	*	*	*	*	*			
障害児（者）リハビリテーション料	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
がん患者リハビリテーション料	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
認知症患者リハビリテーション料	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
早期リハビリテーション加算（リハビリテーション料）	479件	570件	348件	662件	*	307件			
早期離床・リハビリテーション加算（特定集中治療室管理料）	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
初期加算（リハビリテーション料）	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
摂食機能療法	*	*	*	0件	0件	*			
休日リハビリテーション提供体制加算（回復期リハビリテーション病棟入院料）	0件	0件	0件	0件	0件	0件			
入院時訪問指導加算（リハビリテーション総合計画評価料）	0件	0件	0件	0件	0件	0件			

		(項目の解説)	施設全体
体制強化加算 1 又は 2 (回復期リハビリテーション病棟入院料) の届出の有無		体制強化加算は、患者の早期の機能回復や退院を促進するために、専門の医師や社会福祉士を配置していることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	
リハビリテーションを実施した患者の割合		リハビリテーションを実施した患者の割合は、入院患者のうち、疾患や状態に応じたリハビリテーションが実施された患者の割合です。	
平均リハビリテーション単位数 (1 患者 1 日当たり)		平均リハビリテーション単位数は、上記の患者に対し行ったリハビリテーションの平均的な量を示す値です。20分実施した場合を 1 単位とみなします。	
過去 1 年間の総退院患者数		過去 1 年間の総退院患者数等は、令和4年4月から令和5年3月までの1年間に、退院した患者の数と、日常生活機能評価に応じた患者の数です。  日常生活機能評価とは、寝返り、起き上がりなど日常生活で行う基本的な動作について、「自分でできる」「できない」を評価する指標です。自力での動作が難しいほど、点数が高くなります。	
うち入院時の日常生活機能評価が10点以上又は機能的自立度評価法 (FIM) 得点で55点以下であった患者数			
うち機能的自立度評価法 (FIM) 得点で55点以下の患者数			
うち入院時に比較して退院時（転院時を含む）の日常生活機能評価が3点以上（回復期リハビリテーション病棟入院料 1 又は 2 の場合には4点以上）又はFIM総得点で12点以上（回復期リハビリテーション病棟入院料 1 又は 2 の場合には16点以上）改善していた患者数 ※回復期リハビリテーション病棟入院料 1 又は 2 の場合は 4 点以上			
うちFIM総得点で12点以上（回復期リハビリテーション病棟入院料 1 又は 2 の場合には16点以上）改善していた患者数			
前月までの 6 か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棟した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和4年4月		前月までの 6 か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数、実績指數等は、令和4年4月、令和4年7月、令和4年10月、令和5年1月に退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数と、回復期リハビリテーションの実績指數です。	
うちリハビリテーション実績指數の計算対象とした患者数 令和4年4月			
前月までの 6 か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和4年7月			
うちリハビリテーション実績指數の計算対象とした患者数 令和4年7月			
前月までの 6 か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和4年10月			
うちリハビリテーション実績指數の計算対象とした患者数 令和4年10月			
前月までの 6 か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和5年1月			
うちリハビリテーション実績指數の計算対象とした患者数 令和5年1月			
リハビリテーション実績指數 令和4年4月		実績指數とは、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの提供実績を評価する指標で、提供実績を有するほど、数値が高くなります。	
リハビリテーション実績指數 令和4年7月		実績指數とは、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの提供実績を評価する指標で、提供実績を有するほど、数値が高くなります。	
リハビリテーション実績指數 令和4年10月		実績指數とは、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの提供実績を評価する指標で、提供実績を有するほど、数値が高くなります。	
リハビリテーション実績指數 令和5年1月		実績指數とは、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの提供実績を評価する指標で、提供実績を有するほど、数値が高くなります。	

(病棟名)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟			
(機能区分)	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期			
体制強化加算1又は2(回復期リハビリテーション病棟入院料)の届出の有無	届出無し	届出無し	届出無し	届出無し	届出無し	届出無し			
リハビリテーションを実施した患者の割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
平均リハビリテーション単位数(1患者1日当たり)	0.0単位	0.0単位	0.0単位	0.0単位	0.0単位	0.0単位			
過去1年間の総退院患者数	969人	799人	1,166人	771人	*	*			
うち入院時の日常生活機能評価が10点以上又は機能的自立度評価法(FIM)得点で55点以下であった患者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
うち機能的自立度評価法(FIM)得点で55点以下の患者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
うち入院時に比較して退院時(転院時を含む)の日常生活機能評価が3点以上(回復期リハビリテーション病棟入院料1又は2の場合には4点以上)又はFIM総得点で12点以上(回復期リハビリテーション病棟入院料1又は2の場合には16点以上)改善していた患者数 ※回復期リハビリテーション病棟入院料1又は2の場合は4点以上	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
うちFIM総得点で12点以上(回復期リハビリテーション病棟入院料1又は2の場合には16点以上)改善していた患者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
前月までの6か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和4年4月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
うちリハビリテーション実績指標の計算対象とした患者数 令和4年4月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
前月までの6か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和4年7月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
うちリハビリテーション実績指標の計算対象とした患者数 令和4年7月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
前月までの6か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和4年10月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
うちリハビリテーション実績指標の計算対象とした患者数 令和4年10月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
前月までの6か月間に回復期リハビリテーション病棟を退棲した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数 令和5年1月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
うちリハビリテーション実績指標の計算対象とした患者数 令和5年1月	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
リハビリテーション実績指標 令和4年4月	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点			
リハビリテーション実績指標 令和4年7月	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点			
リハビリテーション実績指標 令和4年10月	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点			
リハビリテーション実績指標 令和5年1月	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点	0.0点			



## 医科歯科の連携状況

(項目の解説)							施設全体	
(病棟名) (機能区分)	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	6病棟	7病棟		
歯科医師連携加算（栄養サポートチーム加算）	歯科医師連携加算は、入院中の患者の栄養状態の改善を図るため、歯科医師が院内スタッフと共同で栄養サポートを行っていることを示す項目です。値はその患者数です。						0件	
周術期口腔機能管理後手術加算	周術期口腔機能管理後手術加算は、悪性腫瘍手術等に先立ち、手術等を実施する1か月前の期間で歯科医師が周術期の口腔機能の管理を行っていることを示す項目です。値はその患者数です。						0件	
周術期口腔機能管理料（Ⅱ）	周術期口腔機能管理料（Ⅱ）は、がん等の手術を実施する患者に対し、歯科医師が周術期の手術前後における口腔機能の管理を行い、管理内容を文書により提供していることを示す項目です。値はその患者数です。						0件	
周術期口腔機能管理料（Ⅲ）	周術期口腔機能管理料（Ⅲ）は、がん等への放射線治療、化学療法、緩和ケアを実施する患者に対し、歯科医師が周術期の口腔機能の管理を行い、管理内容を文書により提供していることを示す項目です。値はその患者数です。						0件	
歯科医師連携加算（栄養サポートチーム加算）	0件	0件	0件	0件	0件	0件		
周術期口腔機能管理後手術加算	0件	0件	0件	0件	0件	0件		
周術期口腔機能管理料（Ⅱ）	0件	0件	0件	0件	0件	0件		
周術期口腔機能管理料（Ⅲ）	0件	0件	0件	0件	0件	0件		

[TOPへ戻る](#)